

# 加賀市中期財政計画 令和 3 年度時点修正版について

## 1 計画の位置付け

- 「加賀市中期財政計画」は、行政サービスを継続的・安定的に提供できるよう策定しており、毎年度、時点修正をしています。
- 令和 2 年度は、新型コロナウイルスによる影響が広範囲にわたることを想定し、改めて「加賀市中期財政計画（令和 2 年度策定版）」として5年間の計画を策定しました。
- 加賀市では、「消滅可能性都市」から「挑戦可能性都市」への転換を図るため、スマートシティの実現に向けた事業などにスピード感をもって取り組むこととしています。
- 人口減少に伴う市税収入の減少や、新型コロナウイルスの影響が残る厳しい財政環境において、財源の有効活用や、事業の実施方法を工夫するなどにより、適切に財政運営を行っていく必要があります。
- こうした状況を踏まえて、今回、「加賀市中期財政計画（令和 2 年度策定版）」に時点修正を行い、「加賀市中期財政計画（令和 3 年度時点修正版）」を策定しました。

## 2 計画期間及び会計単位

- ① 計画期間 令和 4 年度から令和 8 年度まで
- ② 会計単位 一般会計

## 3 計画における一般財源及び財政調整基金の見通しの前提条件

- ① 経済状況については、新型コロナウイルスワクチンの接種が進んでいることなどから、令和 3 年度後半に感染が収束に向かい、令和 4 年度にはコロナ禍の影響を受ける前の水準近く（令和元年度の 8~9 割程度）まで回復していくものとしします。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策にかかるものは、想定される国の資金手当てや基金を活用し、必要な対策を適時に実施することとしします。
- ③ 令和 3 年度秋のガソリンをはじめとするエネルギー価格の高騰など、経済、市民生活に影響を及ぼす恐れのある状況が続く場合は、国等の動向を注視し、必要な対策を適時に実施することとしします。

#### 4 「挑戦可能性都市」への転換に向けた財政運営について

- (1) 世界に通用する人財を育成し、先端技術に適応できる企業が集積するまち
- (2) 人々の生活に“ワクワク感”が満ちる未来型生活都市
- (3) 自然・歴史・文化とテクノロジーが織りなす温泉共創地
- (4) 先端技術を活用して全世代に元気と福祉をとどけるまち

上記の4つのビジョンの実現に向けた施策を推進するため、次のとおり取り組みます。

- ① 国・県などの補助メニューの活用  
国・県の補助メニューを積極的に活用するほか、活用可能なあらゆる財源の確保に努めます。
- ② 事業の取捨選択  
行政評価や加賀市まち・ひと・しごと総合戦略の検証等の結果を踏まえ、事業の優先順位を付け取捨選択を行います。
- ③ 民間資金の導入と市民との協働
  - ・PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）の手法による公共施設等の建設・運営等
  - ・指定管理者制度
  - ・企業版ふるさと納税
  - ・連携協定締結企業等や市民との協働

#### 5 大型事業の実施に係る所要一般財源の確保

- ① 北陸新幹線加賀温泉駅関連施設整備事業（総事業費：41億円と想定）  
「重点事業推進基金」及び「減債基金」を活用します。
- ② 環境美化センター大規模改修事業（事業総額35億円）  
「環境美化センター施設整備基金」（ごみ処理手数料の一定割合の積み増し）及び「まちづくり振興基金」を活用します。

#### 6 重点事業推進基金の運用（5億円）

次の事業に重点事業推進基金を活用します。

- ① 「挑戦可能性都市」への転換に向けた4つのビジョンの実現に係る事業
- ② 地方創生推進交付金を活用する事業
- ③ 「公共施設マネジメント」の基本方針に基づく施設の統合・複合化に係る事業
- ④ （再掲）北陸新幹線加賀温泉駅関連施設整備事業

#### 7 計画における数値目標について（令和2年度策定版から変更なし）

- ① 経常収支比率の改善：計画期間内に93%以下を目指します。
- ② 実質公債費比率の改善：10%以下を維持します。
- ③ 市債残高を視野に入れた起債の運用：償還財源の備えを講じながら、借入れを行います。
- ④ 財政調整基金残高の確保：9億円以上を維持します。